

福祉サービス第三者評価結果報告書

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083
所在地 東京都千代田区麹町二丁目5番地4

株式会社生活構造研究所

評価機関名

認証評価機関番号

機構 02 - 022

電話番号 03-5275-7861

代表者氏名 代表取締役 塚田 修二

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
		塚田修二	経営	H0303083
		寺尾道子	福祉	H0302079
		青木裕美子	経営	H0701060
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	わかたけ第二保育園			
事業所連絡先	〒	175-0081		
	所在地	東京都板橋区新河岸1-3-5		
		03-3935-1354		
事業所代表者氏名	山本 慎介			
契約日	2009年 8月 18日			
利用者調査票配付日(実施日)	2009年 8月 31日			
利用者調査結果報告日	2009年 11月 16日			
自己評価の調査票配付日	2009年 8月 31日			
自己評価結果報告日	2009年 11月 26日			
訪問調査日	2009年 12月 9日			
評価合議日	2009年 12月 9日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は8月31日から9月14日までの2週間、保育園を利用している児童の保護者全員(世帯単位)を対象に実施しました。調査票は事業者が保護者に手渡して配布し、評価機関が保護者から郵送で直接回収しています。回収率をあげるため、園内にポスターを掲示したり、園から保護者に調査協力の声かけをお願いしました。 職員に対しては事前に第三者評価の目的や仕組み、自己評価の方法等について資料を作成し説明会を行いました。 また、訪問調査は、評価者が利用者調査・職員自己評価の結果を確認し事前に協議した上で実施しています。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

- 本報告書の内容のうち
- 機構が定める部分を公表することに同意します。
 - 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
 - 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

〔利用者調査：認可保育所〕

(事業所名：わかたけ第二保育園)

調査対象

わかたけ第二保育園を利用している児童の保護者全員(世帯単位)を対象に実施しました。

調査方法

調査はアンケート形式で実施しました。調査票は保育園から保護者に手渡しで配布し、回収は保護者から評価機関への郵送で行いました。また、子どもが2人以上通園している世帯については、最年少児を対象に実施しました。

利用者総数

74

共通評価項目による調査対象者数

74

共通評価項目による調査の有効回答者数

36

利用者総数に対する回答者割合(%)

48.6

利用者調査全体のコメント

『毎日の保育サービス(問1～8)』をみると、8つの評価項目のうち5つの評価項目で肯定的な回答が8割以上を占めており、保護者から高い評価を得ています。特に「戸外遊びの機会(問2)」は保護者全員から、「食事等への配慮(問1)」は保護者の9割以上から評価を得ており、とても高い満足度を示しています。一方、「安全対策(問5)」は肯定的な回答が4割台となっています。

『子どもや保護者の尊重(問9～11)』については、いずれの評価項目も7割以上の評価を得ており、満足している様子が見えられます。

『要望・意見や不満・トラブルへの対応(問12～14)』については、「要望・不満を言いやすい(問12)」と「要望・不満に対応している(問13)」の評価が4割前後に留まっており、保護者の満足度はやや低い結果を示しています。一方、「第三者委員等の認知度(問14)」は、肯定的な回答が7割以上を占めています。

園に対する総合的な感想を尋ねたところ、「大変満足」が4割弱、「満足」が5割強、両方あわせると保護者の9割弱が満足していると回答しており、園のサービスに対する満足度はとても高い結果を示しています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	34	2	0	0
回答のあった保護者の9割以上が肯定的な回答をしており、とても満足している様子が見えられます。 自由意見は5人(回答者の1割強)の方が記述しています。「手づくりのおやつや給食でとても満足している」や「おやつがお菓子でないところがとてもよい」などすべての意見が満足を示しています。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	36	0	0	0
回答のあった保護者すべてが肯定的な回答をしており、とても満足している様子が見えられます。 自由意見は9人(回答者の2割強)の方から記述があります。「戸外遊びの魅力を十分に感じ、入園したが、毎日泥だらけで遊んで子どもも満足している」、「目に見えるほど体力がついた」、「とても親の保育ではまねできないと感謝している」など満足を示す意見がほとんどを占めています。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	31	2	0	3
回答のあった保護者の8割以上が肯定的な回答をしており、満足している様子が見えられます。 自由意見は3人(回答者の1割未満)の方から意見が寄せられています。「いつも感謝している」、「対応も気持ちが良い」など園の対応を評価する声と、「中には嫌な顔され困るときがある」と不満を示す声も寄せられています。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	29	7	0	0
「はい」と肯定的な回答をした保護者が約8割を占め、満足度は高い結果を示しています。自由意見は5人(回答者の1割強)の方が記述しています。「適切に対応してくれる」、「ほんの小さなケガなどでも処置してくれる」など満足を示す意見が多く寄せられています。なお、昨年度、一昨年度に続いて、すり傷などに関して園からの報告や連絡がないことを指摘する意見がみられます。				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	15	17	3	1
「はい」と肯定的な回答をした保護者が4割強、「どちらともいえない」が5割弱を占めています。自由意見は6人(回答者の2割弱)の方が記述しています。「入口近くには先生にいてもらえると安心」、「子どもの数に対して先生が少ない気がする」、「平日の遅い時間、土曜は先生の数が不足していると思う」など子どもたちが遊ぶ様子を見守る職員の対応や人数等に関する意見がいくつか寄せられています。				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	26	7	2	1
「はい」と肯定的な回答をした保護者が7割強と、概ね満足度が高い結果を示しています。自由意見は1人(回答者の1割未満)の方が記述しています。園では土日にも行事を行っていますが、「土日の行事がほとんどないので、仕事をしていると出られない。父親も参加したい」という意見が寄せられています。				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	28	8	0	0
回答のあった保護者の8割弱の方が肯定的な回答をしており、概ね満足している様子がうかがえます。自由意見は5人(回答者の1割強)の方が記述しています。「わからないことも身内のことのように心配してくれる」、「個人面談で十分話せるが、日常は話しをする機会がない」、「毎日直接話すのは難しいと思うが、連絡帳での相談にのってほしい」など、さまざまな意見が寄せられています。				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	30	5	0	1
「はい」と肯定的な回答をした保護者が8割強を占めており、満足している様子がうかがえます。自由意見は5人(回答者の1割強)の方が記述しています。「連絡帳などに書いた話には丁寧に回答してくれる」、「連絡帳に細かなアドバイスがあってよい」、「座ってゆっくり聞いてくれ、丁寧に回答してくれるので感謝している」等、満足を示す意見がほとんどを占めています。				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	26	6	1	3
「はい」と肯定的な回答をした保護者が7割強を占め、概ね満足している様子がうかがえます。自由意見は1人(回答者の1割未満)の方が記述しており、プライバシーに関わる情報の取扱いについて、職員の対応を指摘する声が寄せられています。				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	31	4	1	0
回答のあった保護者の8割以上の方が肯定的な回答をしており、満足している様子がうかがえます。自由意見は2人(回答者の1割未満)の方が記述しています。「子どもが先生にとってもなついていて、かわいがってもらっていることを実感できる」など満足を示す声が寄せられています。				

11. 職員の対応は丁寧か	28	7	1	0
<p>「はい」と肯定的な回答をした保護者が8割弱と、満足している様子がうかがえます。自由意見は2人(回答者の1割未満)の方が記述しています。「いつも礼儀正しく丁寧ではなく、時にざっくばらんにおしゃべりしてくれるところが好きである」という声のほか、職員によって対応に個人差があるという声が寄せられています。</p>				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	14	13	4	5
<p>「はい」と回答をした保護者と「どちらともいえない」と回答した保護者がともに3割台を占めており、満足度がやや低い結果を示しています。自由意見は2人(回答者の1割未満)の方が記述しています。「意見箱があればよい」、「ポストがあれば言えるが、普段みてもらっているの言いにくい」等の声が寄せられています。</p>				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	15	15	0	6
<p>「はい」と回答をした保護者と「どちらともいえない」と回答した保護者がともに同数で4割強を占めています。自由意見は1人(回答者の1割未満)の方から「階段に手すりや電器がついたり、柵がしっかりしたり、対応してると思う」という声が寄せられています。</p>				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	26	0	10	0
<p>回答のあった保護者の7割強の方が「知っている」、3割弱の方が「知らない」と回答しています。自由意見は1人(回答者の1割未満)の方から意見があり、園では相談できる連絡先を園のしおりで紹介していますが、「知っているが、実際の電話などどこにするのかわからない」という声が寄せられています。</p>				
15. [過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に] サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	11	1	0	0
<p>「過去1年以内に利用を開始し、利用前に保育内容などの説明があった」と回答した保護者12人に対する質問となっています。その保護者のうち、11人(9割強)の方が「説明はわかりやすかった」と回答しています。自由意見は1人(回答者の1割未満)の方から「とても丁寧で他の園より説明内容は詳しいと思う」という意見が寄せられています。</p>				

組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

共通評価項目	
カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定
サブカテゴリ1	
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ◎なし

カテゴリー1の講評

園の目指していることを明示し、利用者、職員への周知に努めています

園の理念を園庭門扉、職員用玄関に掲示するとともに、園のしおり、園のホームページに掲載し明示しています。入園の合同説明会や入園前見学会においても園の理念を説明し、利用者の理解が深まるように努めています。職員に向けては、新たに作成した独自の職員手帳「ステートメントブック」に園の理念を掲載し、全職員に配布しています。

30年の歴史を土台に、理念の再構築に取り組みました

わかたけ第二保育園は開設以来30年間に渡り保育事業を実施してきましたが、平成20年度に理念の再構築と明文化に取り組みました。理念の再構築は、リーダー層を中心とした職員主体で行い、保育の実績と経験を踏まえた上で、保育園の目指す方向を明確に示すことができました。職員への周知については、「理念共有化研修」を実施し、明文化の作業を行った職員が検討過程も含めて個別単位に説明するなど、共有と浸透に向けて取り組みました。

園長の早急な判断が必要な時以外は、重要な案件も含め職員会議で協議、決定しています

会議は、園長、フリー保育士、栄養士によるフリー会議、乳児部会、幼児部会、職員会議があり、各部会などであげられた案件は重要な案件も含め、予めフリー会議で検討し方向性を定め、その上で職員会議で協議、決定しています。早急な判断が必要な案件は、園長が判断し、終礼などで周知しています。利用者に関わる重要な案件については、その都度「お知らせ」を配布するほか、各クラスの掲示版や園庭掲示版への掲示、携帯メールへの配信などを通して周知しています。

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ-2		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

カテゴリ-2の講評

独自の職員手帳「ステートメントブック」を作成し、職員の基本行動を明示しています
職員及び事業所の責務については就業規則に明示しています。また、平成20年度に独自の職員手帳「ステートメントブック」を作成し、遵守すべき法、倫理綱領、行動規範のほか、情報管理、安全管理の基礎知識など、福祉サービスに従事する者として守るべきことなどを掲載し、全職員に配布しています。

第三者評価の結果公表等、情報開示を積極的に行っています
園では平成18年度から第三者評価を実施しており、結果をホームページ「わかたけ第二保育園公式サイト」に掲載しています。予算、決算についてもホームページに掲載し、公表するなど情報開示を積極的に行っています。園のしおりでは、ホームページについての情報を掲載し、第三者評価や予算・決算書について閲覧できることを知らせています。ホームページのURLを園の表札や掲示物、板橋区「ほいくじょうほう」に掲載するなど、施設の透明性を高めています。

保育の専門性を活かし、地域社会に貢献しています
園では、板橋区がゼロ歳児をもつ家庭を対象に行っている「板橋区すくすくカード事業」のサービスメニューのひとつ「親子給食体験」を実施し、離乳食や保育園給食に関する相談並びに情報提供をしています。また、板橋区が実施する、外出中にオムツ替えや授乳などで立ち寄ることができる「赤ちゃんの駅」の利用施設になっています。
園独自では、毎年小学校を借りて「民俗芸能公演会」を主催し、約200名以上の児童・家族・地域住民等を無料招待しています。また、園長は板橋区私立保育園園長会の研修部長として、研修の企画や講師を担っています。

カテゴリ-3

3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

サブカテゴリ-1

利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目1

利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えてい	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

評価項目2

利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点(A+)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当

[A+の取り組み] ●あり ○なし

園のホームページでは、平成18年度並びに19年度の第三者評価利用者調査結果を掲載するとともに、寄せられた意見、批判の一つひとつに園からの回答を示し、掲載しています。同様に利用者アンケート調査についても、寄せられた意見すべてと園の回答を掲載するなど、園の考えを明示し公表しています。また、掲示板も設置し公開で質問や要望を伝える機会を提示しています。賛同ばかりでなく寄せられた意見のすべてを掲載し、あわせて園の回答を公表する取り組みは、園と利用者との信頼関係を築き、相互理解を深める活動として評価できます。

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

カテゴリー3の講評

苦情処理について、園のしおりやホームページに詳細に掲載しています

苦情処理については、園のしおり及びホームページに、「苦情申請窓口」の設置、意見・要望の解決のための仕組み、第三者委員の役割や連絡先などを詳細に掲載しています。合同入園説明会においても苦情処理について説明しているほか、電子メールや投書でも受け付けています。利用者調査やアンケートで寄せられた意見については、一つひとつに園からの回答を示し、全容をホームページに掲載しています。ホームページを閲覧できない利用者には印刷物で提供することを園だよりで周知しています。

利用者一人ひとりの意見、要望の把握、対応に努めています

利用者の意向については、アンケート調査を実施しています。平成21年度は、延長保育、保護者会の開催時間と日程、名前の呼び方、防犯対策、メール配信サービス等の項目について意見収集を行いました。アンケートは、それぞれの項目について現状と園の考えを明示した上で意見収集を行い、寄せられた意見や要望については、回答や対応をホームページに掲載するなど、双方向のコミュニケーションとなっています。また、個人面談やグループ面談等を含めた保護者会を年に3、4回開き、保護者の意見、要望の把握に努めています。

保育事業について幅広く情報収集し、情報提供も積極的に行っています

園長は、「男性保育者連絡会」、「板橋区社会福祉士会」、「板橋区私立保育園園長会」の要職を務めるほか、「保育園を考える親の会」や「保育者ねっとわーく」などを通じて保育事業に関する情報を幅広く収集し、保育事業の動向把握、分析を行っています。収集した情報は適宜職員に周知しています。

また、園のホームページでは園の生活のみならず、保育に関するリンク先を幅広く掲載するなど、利用者ばかりでなく保育園を探したり、保育に関心がある人などに、保育事業に関する情報を提供する役割も果たしています。

4	カテゴリ-4	
計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ-1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(B)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
[A+の取り組み] ○あり ●なし		
サブカテゴリー2		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
[A+の取り組み] ○あり ●なし		
カテゴリー4の講評		
中長期計画の策定が期待されます 平成20年度は、理念の再構築と共有化研修を行うことで、園の目指すべき方向を明確にすることができました。今後は、職員間で長期的なビジョンを共有するためにも、具体的な取り組みを示した中・長期計画の策定が期待されます。各年度の計画については、保育課程、発達指針、事業計画書、食育年間計画、避難消火訓練年間計画などを策定しています。年間行事については、企画と実施の中心を担う行事担当者を決めています。保育課程、発達指針、年間行事予定については園のホームページに掲載し、公表しています。		
職員会議等で計画の策定及び反省を行っています 保育課程、行事予定は、園長が原案を作成し、職員会議の審議を経て策定しています。計画の推進にあたっては、保育活動については年3回の「保育のまとめ」会議において、行事については月例の職員会議において、それぞれ反省を行い、以降の計画に反映させています。 第三者評価の利用者調査、利用者アンケートの結果については、園からの回答を示し、検討した上で、事業計画に反映するなどしています。		
子どもたちの安全確保に計画的に取り組んでいます 子どもたちの安全確保に向けては、「消防計画」、「危機管理マニュアル」、「病院の選択・事故発生時の対応」等を作成し、役割分担や具体的な対応を示しています。事故については、事故の原因と反省を記録した事故簿を作成するとともに、月例の職員会議において検証し、発生予防と改善につなげています。 園のしおりに、食物アレルギー、保健・衛生管理、安全管理等々について記載するなど、子どもたちの安全管理に向けて保護者への情報提供も行っています。		

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

サブカテゴリー2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金・昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

カテゴリー5の講評

職員手帳「ステートメントブック」を作成し、職員の質の維持、向上に努めています

平成20年度に独自の職員手帳「ステートメントブック」を作成し、全職員に配布しました。「ステートメントブック」では、福祉サービスに携わる者としての行動規範のみならず、保護者とのコミュニケーションやクレーム対応などの基本行動、虐待防止や安全管理といった知識についても掲載しています。全職員に配布することで、園の目指す人材像の共通理解を図り、職員の質の維持、向上に努めています。

園内研修の実施、外部研修への参加など、職員の能力向上に取り組んでいます

園内研修については、園長とフリー保育士で計画、実施しています。平成20年度は園内研修プログラムとして理念の再構築と共有化研修に取り組みました。外部研修については基本的に個々が希望する研修に参加しています。研修後は研修報告書を作成し、供覧できるようにするとともに、職員会議において研修報告を行うなど、研修成果の共有化が図られています。

新人職員については複数担任のクラスに配置し、日々の業務においてOJT研修を行えるように配慮しています。

職員の意見が尊重されています

職員の定着率、平均稼働年数が高いことから、経験豊かな職員が在籍しています。重要な案件及び各種計画策定においては、園長の判断が基本となってはいますが、いずれも職員の審議を経るなど、職員の意見が尊重されています。組織においても、職員は基本的に並列となっており、職責に伴う評価がありません。職員一人ひとりの意見や主体性の尊重は、やる気と意欲の向上につながっていますが、反面、個々の自律に委ねられている側面も見受けられます。平成21年度から自己評価を導入しましたが、今後は、組織力の発揮に向けた取り組みが期待されます。

カテゴリ7		
7	情報の保護・共有	
サブカテゴリ1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○非該当
●あり ○なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している 評点(A)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○非該当
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

カテゴリー7の講評

パソコンへのアクセス制限、重要書類の保管など、適正な情報管理を行っています

重要書類を保存している園長のパソコンは、アクセス制限をかけ、職員用のパソコンからデータの読み取りができないようにしています。重要書類の保管は、事務所において施錠のうえ管理し、鍵は園長・事務員が管理しています。日常業務に必要な書類は事務所内で閲覧し、必要なデータは、LANで活用できるようにしています。

個人情報保護について、利用者並びに職員への理解、周知を図っています

個人情報の取扱いについては、園規則で定め、「園のしおり」に掲載しています。職員に向けては、職員手帳「ステートメントブック」に情報の管理について明記し、周知を図っています。実習生に対しては、オリエンテーションの際に「実習の手引き」を用いて説明しています。

カテゴリ-8

8 カテゴリ-1～7に関する活動成果

サブカテゴリ-1

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」
- ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」

A+ A B C

改善の成果

園の方向性を明示し、利用者への周知、社会的責任に向けて取り組みました

平成20年度は理念の再構築と明文化に取り組みました。理念を園のしおり、園のホームページ、職員手帳「ステートメントブック」等に掲載し、利用者と職員への周知を図りました。また、入園合同説明会を開催し、園の基本事項について利用者に直接伝えることができました。第三者評価利用者調査、利用者アンケート調査においては、寄せられた意見と園からの回答を公表しました。園の方向性の明示と利用者や社会への責任を果たす取り組みとして成果をあげています。

サブカテゴリ-2

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」

A+ A B C

改善の成果

研修報告を定例化しました

外部研修の成果を月例の職員会議において報告するようにしました。これにより研修内容の共有化が図られ、組織として学べる仕組みができました。また、保育課程を作成したことにより、保育園運営の全体像や個々の役割について職員の認識が深まりました。

サブカテゴリ-3

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」

A+ A B C

改善の成果

情報の保護、共有に向けて取り組みました

職員手帳「ステートメントブック」を作成し、福祉サービスに従事する者としての基本行動を明示し、情報の保護について周知を図りました。また、職員用パソコンと無線LANを導入し、情報の共有と事務作業の効率化を図ることができました。

サブカテゴリ-4

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

A+ A B C

改善の成果

屋外フェンスの撤去・新設などに補助金を活用しました

園舎改築に向けて、屋外フェンスの撤去及び新設、園庭砂場の撤去及び新設など、事前に進められるものについては、補助金を有効に活用して実施することができました。

また、職員手帳「ステートメントブック」の作成にあたって、都の経営改革推進費を活用して取り組みました。

サブカテゴリ-5

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

A+ A B C

改善の成果

利用者アンケートに寄せられた一つひとつの意見に回答し、ホームページで公表しています

利用者アンケートを実施し、延長保育、保護者会の開催時間と日程、名前の呼び方、防犯対策等の項目について利用者の意向を把握しました。アンケートにおいては、各項目について園の考え方や現況を説明する文章を掲載し、また、利用者から寄せられた意見一つひとつに回答するなど、利用者との相互理解を深める取り組みとして成果をあげています。

サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

共通評価項目	
サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している 評点(A+)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
○非該当	
[A+の取り組み] ●あり ○なし	
子どもたちの楽しい保育園生活が伝わってくる素敵なイラストを用いたホームページを作成しています。ホームページに掲載されている情報は、とても内容が充実しているとともに、利用者が各種手続きに必要な書式等をダウンロードすることができたり、利用者の写真等プライバシーに関わる情報はパスワードでアクセス制御を設けて提供するなど、利用者の利便性や安全性を高める機能や配慮も行われています。また、保護者からの質問に対する回答や掲示板等、園からの一方的な情報提供だけでなく、双方向による情報交流としての利用も行われています。	
サブカテゴリ-1の講評	
<p>さまざまな情報媒体を使って、園の情報を保護者にわかりやすく丁寧に伝えています</p> <p>「園のしおり」は、イラストが入ったカラフルな表紙で、写真や図表等を取り入れながら、わかりやすく丁寧に作成されています。「園だより」や「クラスだより」等もデザインに配慮しながら、子どもたちの保育生活の様子をわかりやすく伝えています。また、ホームページでは、園の「基本理念」や「保育課程」、「園のしおり・年間行事」、「第三者評価・苦情処理」、「予算・決算」等の情報を公開しており、インターネットにアクセスできれば、保護者はもちろん、誰もがいつでも園の情報を入手することができるようになっています。</p> <p>園の情報を公的機関のウェブ上に公開したり、イベント等で地域へ情報発信しています</p> <p>園では、厚生労働省や東京都、板橋区が運営(運営を補助)している子育て支援サイトに情報提供を積極的に行い、園の情報を公開しています。また、園が毎年主催している「民俗芸能公演会」を実施するときには、近隣の小学校や児童館、町会等の協力を得ながら、ポスター掲示やチラシのポスティングなどを行い、地域との交流を深めながら情報発信を行っています。</p> <p>保護者からの問い合わせや見学希望等には、さまざまな方法で柔軟に対応しています</p> <p>保護者からの問い合わせや見学の要望等に対しては、園長が原則対応しています。問い合わせや相談等については、電話のほか電子メールでも対応しています。見学等については、見学者の都合にできる限り合わせて日程調整を行っており、これまで土曜日や夜間に対応したこともあります。また、園が定員いっぱいでは受け入れることができない場合には、他の園や相談機関に関する情報等も紹介しています。</p>	

サブカテゴリ-2

2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

サブカテゴリ-2の講評

平成21年度より合同入園説明会を行っています

今年度より合同入園説明会を、園長・保育士・看護師・栄養士で行っています。説明の内容については、「園のしおり」を活用しています。利用者個々の事情等については、各クラス担当者との入園面談の中で行っています。保護者からの質問等には丁寧に対応しながら保護者の同意を得ています。家庭の意向等は、面談の際に児童票やクラスノートに記録しています。子どもに関する情報は、職員会議で全職員が共有しています。

入園時の不安軽減等のため、園長が個別訪問したり、慣れ保育等を実施しています

入園時に必要書類は、園長が個別訪問し配布しています。その際に、各家庭との挨拶や会話することで、保育園への不安を和らげるようにしています。基本的には、合同入園説明会で全体を説明し、担当の保育士と面談を行い、クラスに応じて1日親子登園や子どもの様子によっては食事体験もしています。また、慣れ保育の期間を設け、家庭の事情や子どもの様子で時間等を柔軟に設定しています。転園・退園児には連絡帳や写真等を贈っています。保護者からの相談を受けたり、継続的に子育て支援の仕組みづくりをしています。

入園前の生活リズムから徐々に園生活に慣れるようにしています

入園時の記録によって入園前の生活習慣を把握し、それを踏まえて保育園での生活習慣に転換できるようにしています。家庭での生活の様子は、送迎時の保護者の会話や連絡帳などを通じて家庭との連携を図っています。子どもが安心して慣れるように、同じ保育者が対応するなど工夫をしています。

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

評価項目1

必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
[A+の取り組み]		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

サブカテゴリー3の講評

子どもの生活状況等は児童票等に記録し、保護者のニーズ等は個人面談で確認しています
 入園前の生活状況や発育状況、食事等については、園が定めた児童票に詳しく記録し把握しています。また、「けんこうカード」には毎月の身体測定や健康診断結果及び発達記録等が記録されています。また、日常の行動としての遊びや排泄面、食事の様子、睡眠等は保育日誌に記録しています。保護者のニーズや課題等の把握は個人面談で確認しています。アセスメントの見直しは、毎月に反省を行い、次期計画につなげています。

保護者の面談で得られた家庭状況や子ども観等も参考に指導計画を作成しています
 年間指導計画をもとに毎月の子どもの姿や様子を把握するとともに、保護者との面談を通して保護者の子ども観を尊重した指導計画を策定しています。連絡帳や個人面談、クラスだより等で、個別の保育手法を伝えています。計画の見直しは、月例のクラス会議で随時行っています。他クラスとの連携が必要な計画変更については、各部会や職員会議を通じて報告・相談をしています。年3回の「保育のまとめ」を通じて、計画・見直し・反省を職員全体で行っています。計画を緊急に変更する必要がある場合の仕組みもあります。

子どもの具体的支援内容は、個々の児童票等に記載し共有化しています
 子どもの情報や具体的な支援内容は保育日誌の中に記録され、園長が内容を確認し捺印しています。児童票には、発達記録や保育経過記録がそれぞれ具体的に記録されています。保育計画は各クラスで作成し、職員会議で確認し、職員全員で共有しています。申し送り、引き継ぎ等は事務室前に4時55分に集まれる職員が集まって、子どもの状況を伝え合い、保護者の送迎時に伝えるようにしています。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
[A+の取り組み]		
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし		

サブカテゴリー5の講評

日々の保育の中で子どもの発達過程や状態に即した保育を行っています
 発達指針に基づき、子ども一人ひとりの発達過程に即した保育を行っています。健康状態や機嫌等の変化に注意しながら、朝の登園時から子ども一人ひとりに声をかけています。個人情報保護については、「園のしおり」に記載しています。就学支援シート等他機関へ情報を提供する必要がある場合には、保護者に同意を得てから行っています。

子ども一人ひとりに寄り添った保育を行っています
 保育園における日々の保育は、集団の中で育つ保育を実践していますが、個々の状況により子どもが一人になりたい気持ちに配慮した取り組みも行っています。子どもの気持ちに寄り添い気持ちが安定するまで、「見守って上げる」、「待って上げる」等個別対応も大切にされた保育を行っています。

子ども一人ひとりを大切に、好きな遊びを十分楽しめる配慮をしています
 子どもの権利擁護と意思の尊重に鑑み、子ども一人ひとりを大切に、子どもたちが好きな遊びを十分に楽しめるように配慮しています。また、子どもが心地よく生活できるように、職員はステートメントブックによる行動規範に基づき、年3回の「保育のまとめ」や月例の職員会議で確認しています。保護者の価値観や生活習慣等については、保護者の子育て観や生活環境を把握した上で、できる限り配慮しています。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし		

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ●なし

サブカテゴリー6の講評

業務水準を確保するためステートメントブックを活用し、職員共通の理解を得ています

業務水準を確保するため、園独自のステートメントブックを作成し、全職員に配布し活用しています。また、基本事項は保育課程に記載されており、食物アレルギー対応や危機管理等については、マニュアルを作成しています。各種マニュアルは担当者が原案を作成し、職員会議等で精査した上で利用されています。職員会議や「保育のまとめ」で、事故記録等をもとに事例研究も行っています。各種マニュアルは事務室に保管し、必要な際には閲覧できるようになっています。

サービスの向上を目指し、業務の見直しや提案は職員会議で検討し進めています

マニュアルの見直し・修正は、事例研究等に応じて適宜行っています。利用者調査や日々のやり取りの中で得られた保護者の要望等は、物事を考える際の参考にしています。ほとんどのことは職員会議で決定するため、職員個々の意見や提案は幅広く活用されています。利用者調査の結果は職員会議で確認して、園の回答や対策を考えることにしています。回答はウェブサイトにも公表しています。

職員は研修でレベルアップを図り、子どもの安全対策はマニュアルを活用しています

職員会議・各部会・各クラス会議で職員間の情報共有に努めるとともに、日々の業務の中で指導や指示が行われています。職員は自己評価等により受講希望の外部研修を選択しています。その他園内研修も行っています。危機管理マニュアル、ステートメントブックにより知識・技術の共有を図っています。年1回救命救急講習を園内で受講しています。保育園全体に関することは園長が対応し、業務に関することは担当部署内で相談・助言が行われています。

サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当
	◎あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当
【A+の取り組み】 ◎あり ○なし			
子どもの自主性や自発性を促し、その積極性や創造力を大人や環境が阻害しないように努めています。また、運動会や作品展など、子どもの発達過程を家庭に伝える取り組みをしています。遊びや食事を通じて日本の文化を多く体験できるようにしています。			
評価項目1の講評			
<p>子どもの発達過程や生活環境に配慮し、自主性や自発性を育てる保育を行っています</p> <p>子どもの個別の情報は、保育日誌・児童票を作成しています。保育日誌には、子どもの全体の様子と個別の様子を分けて記載できるようになっています。子どもの自主性や自発性の育ちについては、「自分で考えて行動する事ができるように」保育環境の設定や整備を行っています。特に遊具等は工夫次第でいろいろな遊び方ができる物を多く取り入れています。竹馬があったり、樹木にロープでタイヤが下げてあったり、子ども達が遊びたくするような環境が盛りだくさんです。</p> <p>日常保育も魅力がいっぱいの、楽しい生活を過ごしています</p> <p>日常保育で行っている描画・製作・リズム・お店屋さんごっこ・劇ごっこのように行事として表現活動を導入しています。天候の悪い日を除き、午前中は園外中心の保育活動となっています。また、小遠足、山登り、芋掘りや、キャンプ等も行っています。室内では3歳から紐とおし等をはじめ、4歳になったら針を使った活動を取り入れ、雑巾を作って、雑巾がけをしています。5歳になったら布でリュックサックを作り、登園時に使っています。園内は、いたる所に魅力が隠れていて子ども達はわくわくの日々を過ごしています。</p> <p>文化や習慣の違いを知るために自国の文化や習慣を体験する取り組みがあります</p> <p>子どもたちが文化や習慣の違いを尊重するために、自国の文化や習慣を体験して知ることを大切にしています。そのために、日本の伝統行事や芸能、遊び、食文化等を多く取り入れています。日本の伝統行事としては七夕・もちつき・お正月・鏡びらき・節分・雛祭り等の行事を丁寧に行っています。このように行事を通して、それぞれに尊重する心、認め合う心を育てる取り組みがあります。また、支援が必要な子どもについては、保護者との連携や巡回指導、他機関と連携しながら、クラスの子どものとともに育つ保育を実践しています。</p>			

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2の講評			
<p>子どもの状態や嗜好も把握し、季節感あふれる美味しい食事を提供しています 食材は旬の物を使い、安心安全や季節感を大切に、献立は1年サイクルで見えています。献立会議で子どもの喫食状況や嗜好を把握して、次の献立に反映させています。栄養士が各クラスの食事の状況を見て回り、子どもの様子を把握するとともに栄養指導を行っています。献立によっては、世界の料理や日本の料理などさまざま変化をつけて、子どもたちを喜ばせています。</p> <p>子どもの状態に合ったイスやテーブル等用意し、食物アレルギーにも対応しています テーブルやイスは年齢が異なるのでクラスによって違う物を用意しています。0歳児は成長に合わせて調整できる食卓イスを使用し、哺乳瓶や粉ミルクは家庭と同じものを園で用意し対応しています。食物アレルギーについては、保護者の要望と医者診断書に基づいて、除去食を中心に対応しています。誤飲誤食がないようにマニュアルに沿って、確認を怠らないように決められたルールに従って実施しています。</p> <p>子どもたちが喜んで快適に食事できるように工夫をしています 季節やお天気の良い時は、気分を変えてベランダで食事をしています。誕生日会等の行事食も子どもたちの楽しみとなっています。小遠足のおきのお弁当も子どもたちは、わくわくしています。自分たちが植えて収穫した物をクッキング保育で食べたり、食に関して興味や関心をもてるような取り組みをしています。お箸は3歳のお誕生日を目安にしていますが、個人差があるので家庭と連携を図りながら取り組んでいます。</p>			
3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をするしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

評価項目3の講評

子どもの心身の健康状態を把握し記録しています

嘱託医は月2回の0歳児検診、年3回の全園児健康診断を行っています。2歳児クラス以上は年2回歯科検診を行っています。ぎょう虫検査は年1回実施しています。身体測定は毎月行い、「けんこうカード」に記録して保護者に見せています。

乳幼児突然死症候群、感染症の予防対応等に関する情報を保護者に提供しています

乳幼児突然死症候群や感染症の予防対応は、感染症対応マニュアルに沿って行っています。0歳児の睡眠チェックは15分毎に行っています。感染症については、除菌水生成装置、空気清浄機を導入しています。手洗い用消毒スプレー等物的な予防と、早期発見のための健康チェックや情報提供等人的な予防を行っています。また、感染症マニュアルについては、職員が定期的に見直しています。

医療的ケアが必要な子どもに関する特別な支援体制ができています

日常的に投薬を要する子どもは医師の指示のもと、保護者と連携して行っています。万一の際の連絡先や搬送先を確認しています。感染症発生や流行の際には各クラスの掲示物や保健だより、メール配信サービス等で情報の提供を行い、早期発見に努めています。

評価項目4

園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている

評点(A)

4

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
◎あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着いた環境・空間にしている	○非該当
◎あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当

[A+の取り組み] ○あり ◎なし

評価項目4の講評

指導計画のねらいや位置づけに基づいた行事を実施しています

伝統文化や季節感を行事に多く取り入れ、子どもたちがさまざまなことを体験する事ができるようにしています。子ども達の想像力や創造力を刺激し、自主性・自発性を促すことを目的とする保育の実践や行事を行っています。保育室は生活空間としてシンプルな環境設定を心がけています。0～2歳の畳スペース、3歳児のままごとコーナー等、遊びを保障する空間があります。

子どもにとって快適で落ち着いた空間づくりに関する取り組みがあります

子どもたちが長時間生活する場としての空間を演出することで、子どもたちの生活を静と動にわけることが可能になっています。静かに絵本を読んだり、年齢によっては、たま落として指先遊びを楽しんだ後、針の使い方に移行したり、園内全体で楽しさを体験できる保育環境となっています。また、職員間で子どもの育ちに必要な環境に関する共有理解があることは、人的環境に対する認識も非常に高いと思われる。一人になりたい子どもの気持ちも受け止め、配慮されていることも伝わってきました。

年齢にあわせて個別状況に対応したお昼寝となるような取り組みをしています

お昼寝は小さい子どもにとってはとても大切な時間であり、十分睡眠をとらせて上げないと、遊ぶ事もできなくなり、気分の優れない不快な一日となるので、食事と同じように十分な睡眠が必要でしょう。幼児になると、ことに5歳児は体力もついてきて、遊びたい思いにかられ、眠れない状況もあるので、休息という形で、横になっている場合が多くなります。また、5歳児は就学に向けてお昼寝がなくなる計画もあるようです。

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
	◎あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
	◎あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている	○非該当
	◎あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
	◎あり ○なし	5. 保護者からの相談に応じる体制を整えている	○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目5の講評

保育活動や行事を通じて、家庭との関係構築に力をいれています
園では、保育参加を常時受け付けており、合同入園説明会や保護者会等でお知らせしています。その結果、多くの保護者が保育参加を体験しており、素晴らしい取り組みと言えるでしょう。やはり、入園説明会前に家庭を訪問している園長の対応が園と保護者の信頼関係につながっているのでしょう。園を代表する園長の取り組みの素晴らしさと思われます。

子どもの様子を保護者に伝える仕組みがあり、保育時間変更等にも柔軟に対応しています
園だよりやクラスだよりを月1回発行しています。見やすい工夫として写真や製作物等も交えて提供しています。日々の連絡帳(全園児あり)には個別の様子を記載しています。保護者会ではビデオで子どもの活動をお知らせすることもあります。ウェブサイトで保護者は写真を閲覧できるようになっています。保護者の都合による保育時間の変更も開所時間内は柔軟に対応しています。保護者がお休みの時の登園ルールを「園のしおり」に記載しています。

保護者が保育園の行事等に参加しやすい工夫と相談に応じる仕組みがあります
保護者が参加できる行事(運動会・卒園式・お祝い会・夏祭り・民俗芸能公演会)を日曜日・祝日・土曜日に行っています。毎年3月に次年度の年間行事予定表を配布しています。また、保護者からの相談には、園長・クラス担当者・看護師・栄養士が内容によって個別あるいは一緒に相談に応じるようにしています。時間帯は保護者の都合を優先して設定しています。

6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		

評価項目6の講評

虐待や育児困難家庭の現状や課題、保育園の役割に関して職員への周知を図っています

区の虐待防止マニュアルに基づき、ステートメントブックにも虐待防止に関して記載し、職員間の周知徹底に努めています。職員は、虐待防止マニュアルを定期的に読み合わせ、日常的な取り組みのなかで必要性を認識しています。また、職員はテーマを決めて自主研究を行っています。

ケース発生への対応方法と、早期発見に向けた外部との連携体制があります

担当職員からの報告に基づき、園長を中心に対応するようにしています。園長が社会福祉士で児童虐待対応の業務経験者であるため、関係機関への通報や連携をスムーズに行うことができる体制になっています。また、ステートメントブックには、職員の行動規範が示されています。

子どもの発達や育児に関して保護者同士が共通認識をもてる取り組みを行っています

保護者会において、各家庭の育児の様子を参加者同士で話せるような機会を設けています。事前に質問等をもちよって、保育園の職員がはじめに子どもの年齢の発達について話をした後、保護者同士のフリートークの時間をつくることで良き学びになったり、刺激になったりしています。

評価項目7

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(A)

7

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目7の講評

保護者に地域の情報を提供し、地域との関係づくりを支援する取り組みに努めています

保護者が要望する地域の情報を利用しやすいように工夫したり、地域の催しものなどは保育園の出入り口の掲示板等に掲示するようにしています。また、区からのお知らせや保健に関する情報等も配布するようにしています。

子どもが地域の人と交流できる機会を確保するための工夫をしています

年1回民俗芸能公演会を主催するなど、卒園児や地域の人々を招待する行事を行っています。また、年長児は近隣の保育園や小学校と交流する機会を設けています。園庭のフェンス越しに散歩や通勤・通学する人と挨拶を交わすなど、地域の保育園として親しみをもってもらっているようです。

特に良いと思う点		
1	タイトル	「子どもたちの遊びの想像力を阻害しない」をコンセプトに、創造的な遊びができる環境を設定しています
	内容	園は、子どもが「自ら考え自ら判断し行動できる」等を保育方針に掲げています。園庭では「子どもたちの遊びの想像力を阻害しない」をコンセプトに穴を掘る、水を流す等子どもの自由な想像力による遊びを保障しながら、子どもが思いっきり活動することで育つ保育をめざしており、戸外遊びに対して保護者全員が満足していると回答しています。保育室でも積み木やブロックなどみため遊びを取り入れるなど創造的な遊びができる環境を設定しています。また、計画的に月1回楽しい経験の日として異年齢保育(3～5歳)も行い、お互いを刺激し合っています。
2	タイトル	インターネットを活用して、保護者との情報共有、外部への情報公開による透明性の確保等を積極的に展開しています
	内容	園は、子どもたちの楽しい保育園生活が伝わってくる素敵なイラストを用いたホームページを作成しています。園の基本理念、保育課程、園のしおり、年間行事、予算書・決算書、苦情処理等の情報を、保護者はもちろんのこと、あらゆる人がウェブサイト上で閲覧したり、必要な書類を入手することができるようになっています。利用者調査についても、調査内容や調査結果だけでなく、保護者からの質問に対する回答等も掲載しています。インターネットを活用しながら、保護者との情報共有、外部への情報公開による透明性の確保等を積極的に行っています。
3	タイトル	子どもたちに食を通して「文化に親しむ心」を育てる取り組み等を積極的に行っています
	内容	園は基本理念のひとつに「食文化」の大切さを掲げています。季節感や旬の食材をはじめ、園庭で子どもたちと一緒に栽培した野菜等を取り入れながら、1年サイクルの献立づくり、子どもたちに食を通して「文化に親しむ心」を育てる取り組みを行っています。また、食育年間計画を作成し、3歳児はクッキー作りや野菜をちぎる、4歳児は献立からの一品作りや包丁を使って野菜を切る、5歳児はよもぎ団子やパン作り、宿泊保育での食事づくりなど、年齢に応じた料理保育を取り入れ、実際の体験を大切に食育に関する取り組みを積極的に行っています。
さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	フラットな組織体制の良い点を活かしながら、組織体制の再構築を検討することが必要と思われます
	内容	園は開設以来、「職員がみんなで考えて、みんなで決めて、みんなで実践する」というボトムアップ型の事業運営を実施してきており、園長以外の職員は役職等がなくフラットな組織体制になっています。この体制は、全職員に園の運営に参画する意識を醸成する点等で良い面がありますが、業務における指示・命令や責任の所在等があいまいになったり、OJTが実施しにくいなどの支障もあるようです。今後は、フラットな組織体制の良い点を活かしながら、職員が職務能力を最大限に発揮でき、働きやすい組織体制の再構築を検討することも必要と思われます。
2	タイトル	子どもの生活空間を整えることで、子どもの感性も育ち、園生活でのQOLを高めることにつながると思われます
	内容	保育室は、子どもが毎日遊んだり、食事をしたり、午睡をする等様々な活動を行う場である同時に、生活をする場でもあります。園を見学した日は、丁度お店屋さんごっこ等を行うための道具等が用意されていたためか、室内が少し煩雑な状況にみえました。毎日、子どもが活発な活動を展開するなかで、室内の整理整頓を行うことは難しいことかもしれませんが、日々の生活のけじめも大切であると思われれます。活発な活動の後は、さっぱりと美しい室内で生活することも子どもの感性を育てることになり、園生活でのQOLを高めることにつながると思われれます。
3	タイトル	安全対策の面で保護者と園が相互に理解し、協力できる仕組み等を検討していくことが必要と思われれます。
	内容	園庭では「子どもたちの遊びの想像力を阻害しない」をコンセプトとして、園は子どもの自由な遊びを保障し、思いっきり活動できる保育を実践しています。この戸外遊びのあり方については保護者からも非常に高い評価を得ています。しかし一方で、子どもの遊ぶ様子を見守る職員の対応や人数等、安全対策の面から保護者が不安を感じている様子もうかがえます。子ども自身が遊びの中で危険を学ぶことも大切にしなが、事故に対する未然防止と事後対応等について、保護者と園が相互に理解し、協力できる仕組み等を検討していくことが必要と思われれます。